

最期のその時のために、 元気なうちから縁起でもない話をしよう

◆ 人生の最終段階における医療に関する意識調査

町では、医療と介護の両方を必要とする高齢者を支援するため、医療と介護の連携体制を構築することを目的とした『在宅医療・介護連携推進事業』に取り組んでいます。この取組の中で、『人生の最終段階における医療に関する意識調査』を実施し、これまでも広報誌で結果をお伝えしてきました。アンケートをきっかけに家族で人生の最終段階について話し合ってみようという声を頂いたことから、今一度皆さんにも人生の最終段階について考えるきっかけになればと思います。アンケートの内容を掲載します。



■ アンケート内容

問1 人生の最終段階における医療・療養について、これまで考えたことがありますか。

問2 人生の最終段階で、受けたい医療・療養や受けたくない医療・療養について、ご家族等や医療介護関係者とのくらい話し合ったことがありますか。また、これまで話し合ったことのない方は、その理由は何ですか。

※「ご家族等」の中には家族以外でも、自分が信頼して自分の医療・療養に関する方針を決めてほしいと思う人（友人、知人）を含みます。

＜話し合ったことのない理由＞

1. 話し合いたくないから
2. 話し合う必要性を感じないから
3. 話し合うきっかけがなかったから
4. 知識がないため、何を話し合っているかわからないから
5. その他

問3 もし、ご家族等や医療介護関係者等の方と医療・療養について話し合う時期があるとすると、いつ頃が良い年齢だと思いますか。

問4 人生の最終段階で、受けたい医療・療養や受けたくない医療・療養を考えるために、どのような情報を得たいと思いますか。

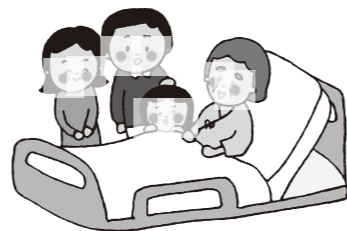
1. 人生の最終段階の心身の状態の変化
2. 人生の最終段階に受けられる医療の内容
3. 人生の最終段階に過ごせる施設・サービスの情報
4. 人生の最終段階に受けたい医療や療養の場所に関する体験談
5. 人生の最終段階における、自分の意思の伝え方や残し方
6. 人生の最終段階の相談・サポート体制
7. その他
8. 知りたくない

お問い合わせセンター「ハピネス」内
保健福祉課 地域包括支援センター
5-1-165 (5局のいろいろ)

問5 人生の最終段階の医療・療養について、あなたの意思に沿った医療・療養を受けるためには、ご家族等や医療介護関係者等とあらかじめ話し合い、又繰り返し話し合うこと(アドバンス・ケア・プランニング<ACP>)が重要とされています。このような話し合いを進めることについて、あなたはどのように思いますか

問6 どこで最期を迎えたいかを考える際に重要だと思うことは何ですか。

1. 信頼できる医師、看護師、介護職員などにみてもらうこと
2. 自分なじみのある場所にいること
3. 家族等との十分な時間を過ごせること
4. 自分らしくいられること
5. 人間としての尊厳を保てること
6. 体や心の苦痛なく過ごせること
7. 不安がないこと
8. 家族等の負担にならないこと
9. 可能な限り長生きすること
10. 積極的な医療を続けられること
11. 経済的な負担が少ないこと
12. どんなことでも相談できる窓口があること
13. その他



人生の最終段階の受けたい医療・療養や受けたくない医療・療養については(問2)、繰り返し話し合うことが重要とされています。これまで話し合っていない理由の多くは「話し合うきっかけがなかったから」と回答しています(図)。

「人生の最終段階」は誰にでも訪れる時期であり、縁起でもない話と捉えるのではなく、必ず訪れるその時期に向かって「どういう人生を送りたいか」と考えると、とてもポジティブな話題でもありません。しかし、何かきっかけがなければ、なかなか話しにくい話題でもありません。本稿が話し合いの1つのきっかけになればと思っております。

図 話し合ったことがない理由

